

## 第3章 地域別構想

### 1. 地域別構想の位置づけと地域区分

地域別構想は、全体構想における将来都市像や都市づくりの基本方針との整合を図りながら、地域の特性や現状を踏まえ、地域に応じたまちづくり方針を示します。

地域区分は、地形的要因や市街地形成の過程を踏まえ、合併前の旧町の行政区域をもとに、「東市来地域」、「伊集院地域」、「日吉地域」、「吹上地域」の4地域とします。



## 2. 東市来地域のまちづくり方針

### (1) 地域の概況

東市来地域は、本市の北部に位置し、北はいちき串木野市、薩摩川内市及び鹿児島市、東は伊集院地域、南は日吉地域に隣接し、西は東シナ海に面しています。

地域内には南九州西回り自動車道の美山インターチェンジが設置され、広域的なアクセスに恵まれているほか、国道3号及び国道270号が地域の骨格を形成し、これらの幹線道路沿いを中心に市街地が形成されています。

地域の東部は中山間地、西部は海に面する低地となっており、旧来の市街地で東市来支所が立地する鶴丸地区、歴史ある温泉場が残る湯之元地区、美しい景観を有する江口浜や漁港のある伊作田地区、歴史と伝統のある薩摩焼を今なお受け継ぐ美山地区など、それぞれ個性豊かな地区が形成されています。

東市来地域の人口は平成27年現在11,704人、世帯数は4,776世帯であり、将来（平成47年）の人口は10,100人程度まで減少すると見込まれます。

主な都市計画としては、南九州西回り自動車道や国道3号及びJR鹿児島本線の周辺一帯に東市来都市計画区域が設定され、JR東市来駅周辺部及びJR湯之元駅周辺部に用途地域、JR湯之元駅周辺部に8本の都市計画道路が指定されています。

図 東市来地域の位置

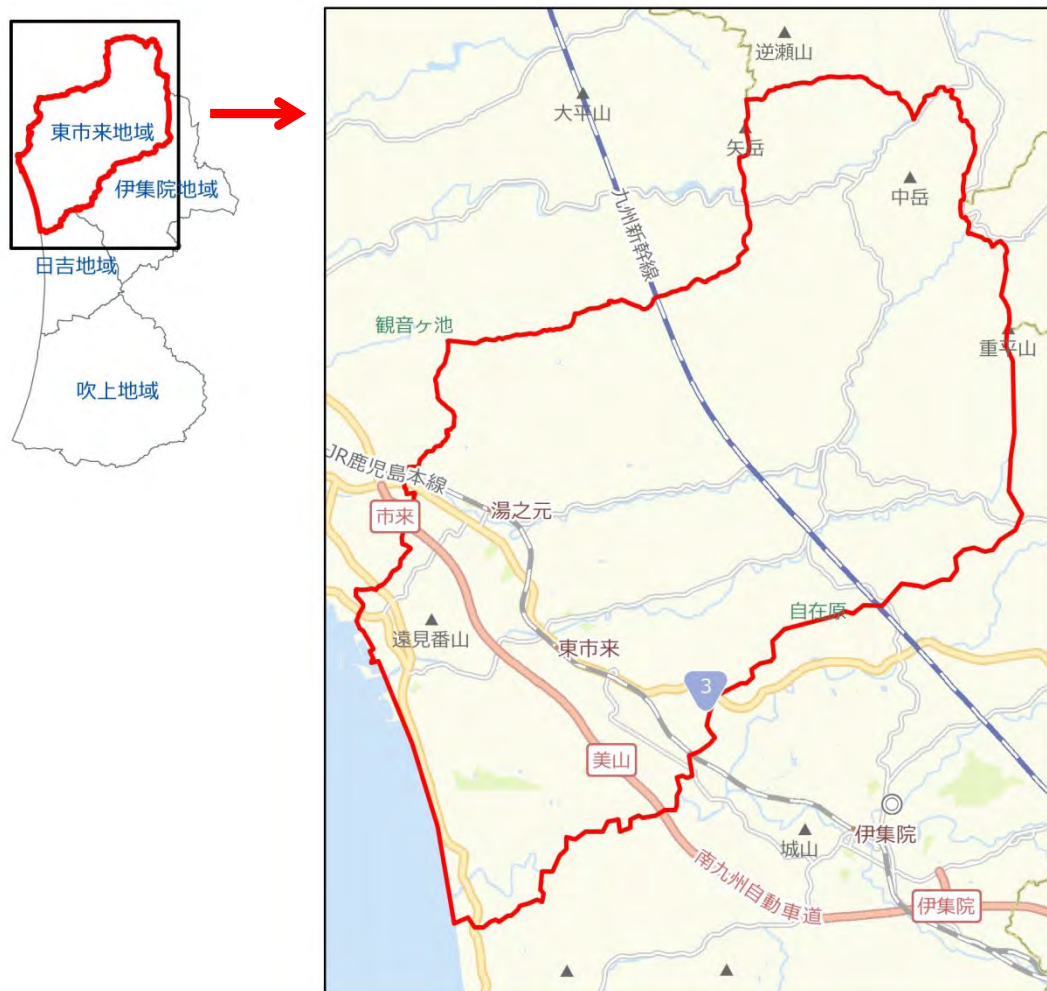


表 東市来地域の人口・世帯数

|           | 人口     |       |        |        |      |       | 世帯数    |           |
|-----------|--------|-------|--------|--------|------|-------|--------|-----------|
|           | 総数     | 15歳未満 | 15～64歳 | 65歳以上  | 不詳   | 高齢化率  | 総数     | 平均世帯人員    |
| 東市来地域     | 11,704 | 1,392 | 5,942  | 4,370  | 0    | 37.3% | 4,776  | 2.45 人/世帯 |
| 日置市全体     | 49,249 | 6,341 | 26,909 | 15,569 | 430  | 31.6% | 19,649 | 2.51 人/世帯 |
| 市全体に占める割合 | 23.8%  | 22.0% | 22.1%  | 28.1%  | 0.0% | -     | 24.3%  | -         |

出典：平成27年国勢調査

図 東市来地域の将来人口の見通し



## (2) アンケートによる意向把握

地域の将来イメージについては、「子ども、高齢者、障がい者に優しいまち」に最も多くの回答があり21.5%の割合を占めていますが、「災害に強い、安心して安全に暮らせるまち」も20.6%と、概ね同等の割合となっています。

地域整備の方向性としては、コンパクトなまちづくりを進めることに対して多くの支持が集まったほか、未利用地の解消への取り組み、小売り店舗やサービス施設の集積、郊外型大型店舗の立地促進、身近な生活道路の整備、身近な公園の整備といった方策に多くの期待が寄せられています。

表 アンケート調査結果

|           |             |     |                                               |
|-----------|-------------|-----|-----------------------------------------------|
| 地域の将来イメージ |             | 第1位 | 子ども、高齢者、障がい者に優しいまち (21.5%)                    |
|           |             | 第2位 | 災害に強い、安心して安全に暮らせるまち (20.6%)                   |
|           |             | 第3位 | 健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち (14.8%)                 |
| 地域整備の方向性  | コンパクトなまちづくり | 第1位 | 徒歩や公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集めるべきだ (65.3%)  |
|           |             | 第2位 | 道路や下水道、学校など、現在のまま維持していくべきだ (14.1%)            |
|           | 住宅地の整備      | 第1位 | 住宅地内に残る未利用地の解消に取り組む (26.6%)                   |
|           |             | 第2位 | 建物の老朽化や密集状況を改善する (21.9%)                      |
|           | 商業地の整備      | 第1位 | 小売り店舗や金融機関などのサービス施設を集積させて、活気ある地域を形成する (37.1%) |
|           |             | 第2位 | 文化会館などの公共施設や大型店舗を集積させて、人が集まる中心核を形成する (20.4%)  |
|           | 郊外型大型店舗     | 第1位 | 郊外の大型店は車で買い物が便利であり、自分の地域に立地が進むと良い (30.3%)     |
|           |             | 第2位 | 郊外型大型店の立地が進むと、自分の地域の中心市街地が衰退する (20.8%)        |
|           | 道路や公共交通     | 第1位 | 身近な生活道路の整備や補修 (25.6%)                         |
|           |             | 第2位 | 歩行者や自転車が安全に通れる道路整備 (19.1%)                    |
|           | 公園の整備       | 第1位 | 身近な場所にあり、子どもや高齢者が利用しやすい公園の整備 (35.0%)          |
|           |             | 第2位 | 災害時に避難場所となる公園の整備 (27.8%)                      |

出典：日置市都市計画マスタープラン まちづくりアンケート調査

### (3) 地域づくりの主要課題

#### 都市づくり・拠点整備

- 本地域の人口は減少傾向にあり、将来の人口規模に見合ったまちづくりが必要です。
- 転出人口の超過傾向が続いているため、転出人口抑制に向けたまちづくりが必要です。
- 小中学校は、地域住民との合意形成を前提とした再編の検討が必要です。
- 湯之元地区における温泉等の観光資源の創出・魅力向上につながる拠点整備と、狭隘道路の解消が課題です。
- 江口浜周辺はスポーツ施設やレクリエーション施設の集積がみられ、スポーツ・レクリエーション拠点としての整備促進と活用が期待されます。

#### 土地利用

- 新築動向のほとんどは住宅地であり、無秩序な宅地化の抑制による良好な住環境の形成が求められます。
- 公営住宅は空き家率には偏りがあり、効果的な公営住宅整備が求められます。
- 湯之元地区には国道3号沿道に一定の商業集積がみられますが、一帯は住居系建物が大半であり、現在の商業地域の指定を含め、住環境保全に向けた用途地域の見直しの検討が課題です。
- 商店街では空き店舗がみられるため、地域の商店街の活性化に向けた空き店舗解消の取り組みが必要です。
- JR東市来駅北西部には準工業地域の指定がされていますが、郵便局も立地する住宅地域となっており、用途地域見直しの検討が必要です。
- 湯之元第一地区土地区画整理事業による市街地整備が期待されます。

#### 都市交通

- 南九州西回り自動車道、国道3号、国道270号で構成されている地域の骨格を形成する幹線道路の整備充実が必要です。
- 美山インターチェンジについては、フルインターチェンジ化<sup>※9</sup>及び国道3号・国道270号を結ぶ路線のアクセス強化が望まれます。
- 皆田工業団地方面から市来インターチェンジへのアクセスはJR湯之元駅前を通過する必要があることから、県道山田湯之元停車場線におけるJR湯之元駅前を迂回する路線の整備が期待されます。
- 面整備事業を伴わない街路の整備が進んでいない状況のため、これら街路の整備方策を検討する必要があります。
- コミュニティバスは利用者の減少がみられることから、乗合タクシーの導入の是非の検討やコミュニティバスの利用者増加につながる方策の検討が必要です。

※9 フルインターチェンジ化：美山インターチェンジは現在、鹿児島方面からの出入口のみ供用されているハーフインターチェンジであるが、熊本・薩摩川内方面からの出入口を含め、上下線に対して全て乗り降りすることができるようにすること。

## 都市環境・景観形成

- 湯之元第一地区土地区画整理事業区域内の街区公園（轟木公園、平田公園、湯之坂公園、久木元公園）の整備推進が必要です。
- 東シナ海への良好な眺望景観の保全と活用が求められます。

## (4) 地域づくりの目標

## 東市来地域の将来像

## 「ものづくり、ひとづくり、ふれあいやふれるまち」

農業、漁業、温泉、薩摩焼など、地域の豊かな資源を活かした「もの（魅力）づくり」と、それらを継承・牽引していく「ひとづくり」を進め、ふれあいやふれるまちを目指します。

## ①資源を活かし地域のにぎわいと交流を生み出すまちづくり

本地域には、湯之元温泉や江口浜、江口漁港、薩摩焼の里美山などの特色ある地域資源が点在しています。

それら地域の魅力を高め、連携していくことにより、にぎわいや交流を促すまちづくりを展開します。

## ②暮らし続けられる地域づくり

日常生活に必要な機能が集積した東市来支所周辺について、日常生活を支える地域拠点として位置づけ、各地区と連携しながら、現在の機能を維持するまちづくりを展開します。

また、地域拠点以外の地区では、安全・安心な生活環境に必要な整備を進めながら、人と人のつながりによる地域の魅力を高め、暮らし続けられる地域づくりを展開します。

## (5) 土地利用及び拠点整備の方針

- JR東市来駅周辺とJR湯之元駅周辺を中心として、都市的サービスが集積し、利便性とゆとりのある生活環境を備えた中心市街地を形成します。また、美山地区における薩摩焼の里や伊作田地区の観光・レクリエーション資源を活かした、にぎわいやふれあいやある拠点づくりを推進します。
- 地域の人口は減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くものと見込まれ、人口規模に見合ったまちづくりを進めます。具体的には、身近な買い物環境や公共交通ネットワークの充実に努め、市街地部における都市機能の集積と周辺部から市街地部に行き来し易い環境整備を図ります。
- 鶴丸地区は行政サービスや交流活動の中心となる市役所支所や東市来図書館、東市来文化交流センター等の集積を活かし、誰もが利用しやすく、地域の中心にふさわしい機能を備えた業務サービス拠点を形成します。
- 美山地区の薩摩焼の里周辺は、本市の観光拠点として位置づけ、魅力向上につながる拠点整備を進めていきます。美山インターチェンジと美山地区を結ぶ路線の環境整備、伊集院地域や湯之元地区とを結ぶ公共交通の充実などにより、美山地区の活性化を促進します。



- スポーツ・レクリエーション機能の集積がみられる江口浜周辺は、施設整備や浜辺の活用など、スポーツ・レクリエーションの拠点整備を図ります。マリンスポーツでにぎわう江口浜、湯之元球場、東市来総合運動公園、B&G海洋センター、こけけドーム、江口浜や漁港を眺望できる遠見番山といった様々な資源と、湯之元温泉との連携やサイクリングロードとの連携も考慮し、スポーツ・レクリエーション拠点として施設の整備充実等を図ります。
- JR東市来駅周辺の住宅地については、準工業地域の指定がされている地区もあるため、国道3号の沿道利用や後背地の住環境の保全が図られるよう、用途地域の見直しを進めていきます。
- 商店街の空き店舗がみられる傾向にあることを踏まえ、空き店舗やその土地を活用した、地域の活性化につながる方策を検討していきます。
- 湯之元地区では、湯之元第一地区土地区画整理事業の事業推進により、JR湯之元駅周辺の一体的な環境整備を図ります。
- 湯之元地区の国道3号南側の一帯は、温泉施設を含む主として住宅地ですが、狭隘道路が残る住宅密集地であることを踏まえ、防災面と温泉地の活性化につながる都市整備が必要とされ、行政と地元住民との協働による地区活性化計画の策定や市街地整備を進め、温泉街の良好な街並みづくりを図ります。
- 老朽化している公営住宅の建て替えや定住促進に向けた住宅地整備など、子育て世代から高齢者までの誰もが暮らしやすいと感じる住宅地整備を推進し、市街地部に人が集まる施設整備を検討していきます。
- 物産館（こけけ特産品販売所、江口蓬莱館）は、食のふれあい拠点として、地域内外の来訪者が集い、ふれあいを感じる場を提供していきます。
- 地区公民館については、既存の施設を活かし、地区コミュニティの形成の場として施設の活用を進めていきます。

#### （6）交通施設整備の方針

- 地域の骨格を形成している南九州西回り自動車道、国道3号、国道270号については、継続して整備を促進し、広域軸として市来インターチェンジや隣接市へのアクセス向上を図ります。
- 美山インターチェンジのフルインターチェンジ化を促進するとともに、美山インターチェンジと国道3号や国道270号を結ぶ道路のアクセス向上を図ります。
- 東市来地区や湯之元地区の国道3号の交通集中を解消するため、国道3号に接続する各県道等の交通体系の見直しや道路改良等を検討していきます。
- 県道山田湯之元停車場線におけるJR湯之元駅前を通過する交通体系の見直しを検討し、駅前の通過交通流入の抑制を図ります。
- 公共交通としては、東市来地域は現在、他の地域で導入している乗合タクシーは導入しておらず、コミュニティバスを運営している状況です。今後は、日置市地域公共交通網形成計画に基づき、公共交通ネットワークの充実を図り、自家用車に頼らずとも通院や買い物、通学などに行き来し易い環境整備を目指します。また、地域住民の利便性向上と効率的な行政運営につながる事業運営方策を継続的に検討していきます。

- 未整備となっている都市計画道路3・4・1号湯之元赤崎線、都市計画道路3・5・5号下原中央線、都市計画道路3・5・7号田之湯駅前線について、各路線が湯之元地区に位置することから、温泉街の活性化につながる街路整備の在り方を検討していきます。
- 南さつま市加世田から日吉地域まで整備されているサイクリングロードについて、江口浜までの延伸・整備の実現を目指します。さらに薩摩街道との接続も検討し、自転車・歩行者空間のネットワーク化により、施設の有効活用と地域の魅力向上につなげます。

#### (7) 地域環境整備の方針

- 現在未整備となっている街区公園の轟木公園、平田公園、湯之坂公園、久木元公園は、湯之元第一地区土地区画整理事業の整備推進とともに公園整備を図ります。
- 薩摩街道の沿道環境整備を図ります。
- 遠見番山をはじめとする東シナ海への良好な眺望が望める公園緑地等の整備を進め、良好な景観の維持・保全を図ります。
- 湯之元地区の稲荷神社周辺に自生する国指定天然記念物ヤッコソウは、地域固有の貴重な植物であることから、その発生地周辺については今後とも保全を図ります。
- 海浜地の保全と活用を図ります。吹上浜の松林は、飛砂防止の観点から吹上浜自然公園の指定のもと、保全を図ります。
- 棚田景観の保全活用方策を検討します。
- 市来鶴丸城跡及びその周辺は、歴史文化資源の保全・活用を図るため、市民と行政が協働で行う周辺の環境保全方策を検討していきます。
- 江口浜海浜公園の整備・保全を図ります。
- 東市来総合運動公園は、地域のスポーツ・レクリエーションの場として、整備を促進します。
- 地域内に整備された皆田工業団地については、今後とも操業環境整備と雇用の場の確保を図るとともに、都市計画制度の導入等による周辺環境の保全方策を検討していきます。
- 生徒数の減少がみられる小学校や中学校については、地域住民との合意形成を前提として学校再編の検討を進め、教育環境の維持向上を図ります。
- 漁港の環境整備を促進します。

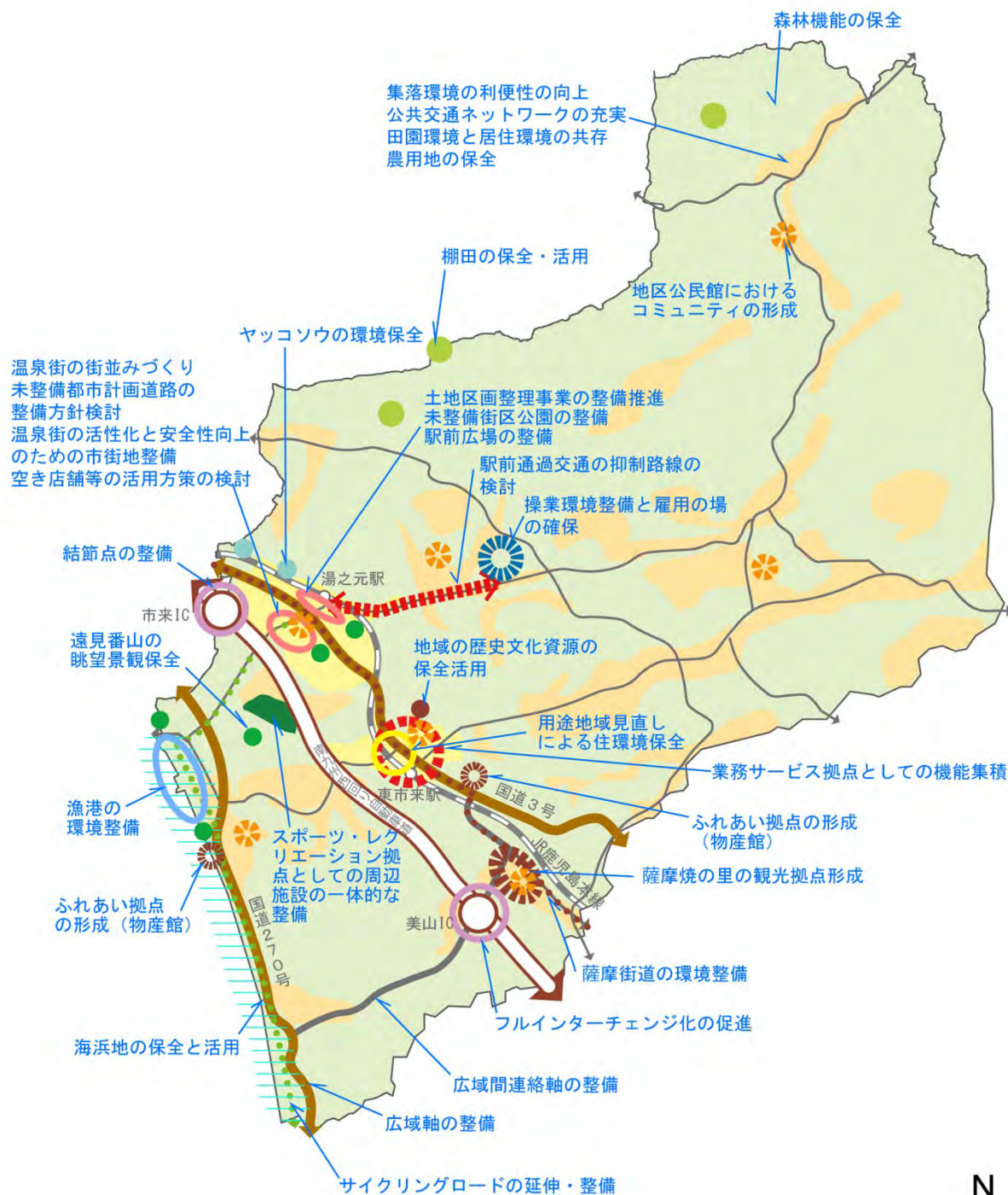


窯元祭り



江口蓬菜館

図 地域整備の方針（東市来地域）



0 1.0 2.0 3.0km





### 3. 伊集院地域のまちづくり方針

#### (1) 地域の概況

伊集院地域は、本市の東部に位置し、北は東市来地域、東は鹿児島市、南は鹿児島市や吹上地域、西は日吉地域と隣接しています。

鹿児島市と熊本県八代市を結ぶ南九州西回り自動車道が地域内を走り、地域内には伊集院インターチェンジが設置され、本市と広域圏を結ぶ交通の要衝となっているほか、国道3号が地域の骨格軸となり、伊集院インターチェンジと国道3号の間に中心市街地を形成しています。

鹿児島市から20km圏内という地理的条件にあり、古くから日置郡の中心都市として発展を続け、平成17年の市町村合併以後は日置市における行政・経済活動の中心的な役割を果たしています。また、近年では住宅地開発やJR伊集院駅周辺における土地区画整理事業等の市街地再開発が進むなど、市街化の進展がみられる地域となっています。

伊集院地域の人口は平成27年現在24,593人、世帯数は9,442世帯であり、将来（平成47年）の人口は23,000人程度まで減少すると見込まれます。

主な都市計画としては、JR鹿児島本線や国道3号周辺の一帯に伊集院都市計画区域が設定されており、JR伊集院駅を中心とした市街地部を主として用途地域や10本の都市計画道路が指定されています。

図 伊集院地域の位置

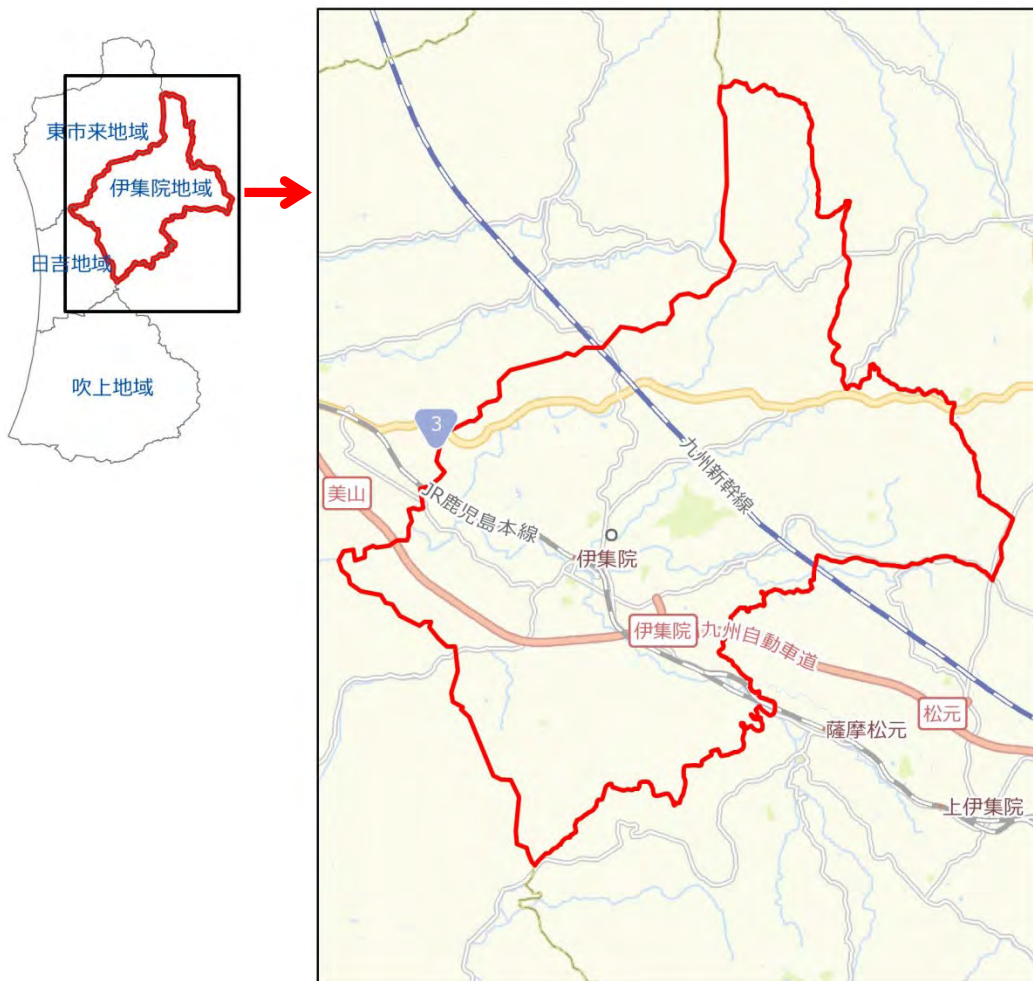


表 伊集院地域の人口・世帯数

|           | 人口     |       |        |        |       |       | 世帯数    |           |
|-----------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|-----------|
|           | 総数     | 15歳未満 | 15～64歳 | 65歳以上  | 不詳    | 高齢化率  | 総数     | 平均世帯人員    |
| 伊集院地域     | 24,593 | 3,642 | 14,384 | 6,182  | 385   | 25.1% | 9,442  | 2.60 人/世帯 |
| 日置市全体     | 49,249 | 6,341 | 26,909 | 15,569 | 430   | 31.6% | 19,649 | 2.51 人/世帯 |
| 市全体に占める割合 | 49.9%  | 57.4% | 53.5%  | 39.7%  | 89.5% | -     | 48.1%  | -         |

出典：平成27年国勢調査

図 伊集院地域の将来人口の見通し



## (2) アンケートによる意向把握

地域の将来イメージについては、「子ども、高齢者、障がい者に優しいまち」に最も多くの回答があり22.0%の割合を占め、第2位の「健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち」を4.2ポイント上回る結果となっています。

地域整備の方向性としては、コンパクトなまちづくりを進めることに対して多くの支持が集まったほか、未利用地の解消への取り組み、小売り店舗やサービス施設の集積、郊外型大型店舗の現状維持、身近な生活道路の整備、身近な公園の整備といった方策に多くの期待が寄せられています。

表 アンケート調査結果

|           |             |     |                                               |
|-----------|-------------|-----|-----------------------------------------------|
| 地域の将来イメージ |             | 第1位 | 子ども、高齢者、障がい者に優しいまち (22.0%)                    |
|           |             | 第2位 | 健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち (17.8%)                 |
|           |             | 第3位 | 災害に強い、安心して安全に暮らせるまち (17.3%)                   |
| 地域整備の方向性  | コンパクトなまちづくり | 第1位 | 徒歩や公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集めるべきだ (68.0%)  |
|           |             | 第2位 | 道路や下水道、学校など、現在のまま維持していくべきだ (17.1%)            |
|           | 住宅地の整備      | 第1位 | 住宅地内に残る未利用地の解消に取り組む (24.6%)                   |
|           |             | 第2位 | 住宅地であっても店舗などの立地をしやすい (18.9%)                  |
|           | 商業地の整備      | 第1位 | 小売り店舗や金融機関などのサービス施設を集積させて、活気ある地域を形成する (33.0%) |
|           |             | 第2位 | 文化会館などの公共施設や大型店舗を集積させて、人が集まる中心核を形成する (20.9%)  |
|           | 郊外型大型店舗     | 第1位 | 現在の立地状況程度が、自分の地域にとっては丁度良い (33.5%)             |
|           |             | 第2位 | 郊外の大型店は車で買い物が便利であり、自分の地域に立地が進むと良い (24.8%)     |
|           | 道路や公共交通     | 第1位 | 身近な生活道路の整備や補修 (20.3%)                         |
|           |             | 第2位 | 電車、路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーなど公共交通の利便性の向上 (20.0%)  |
|           | 公園の整備       | 第1位 | 身近な場所にあり、子どもや高齢者が利用しやすい公園の整備 (37.1%)          |
|           |             | 第2位 | 災害時に避難場所となる公園の整備 (23.4%)                      |

出典：日置市都市計画マスタープラン まちづくりアンケート調査

### (3) 地域づくりの主要課題

#### 都市づくり・拠点整備

- 伊集院地域の人口は宅地開発の効果もあり増加傾向にありますが、今後は徐々に減少が見込まれることから、人口減少に見合ったまちづくりが必要です。
- 徳重土地区画整理事業により新たな都市空間が整備されたJR伊集院駅北側は、にぎわいのある都市空間としての整備が求められます。
- 伊集院インターチェンジ周辺には清藤工業団地や商業業務系店舗の立地がみられますが、用途地域の指定はされていないため、建物用途の混在による環境悪化が懸念される場合は、用途地域の指定の検討が必要です。
- 小中学校は、地域住民との合意形成を前提とした再編の検討が必要です。
- 老朽化が進んでいる伊集院文化会館の大規模改修が必要です。

#### 土地利用

- 住宅地を中心に新築動向が続いていることから、無秩序な宅地化の抑制による良好な住環境の形成が必要です。
- 大規模小売店舗の進出とともに、中心商店街の活力低下が懸念されるため、中心商店街の活性化につながる都市整備が期待されます。
- 徳重神社周辺の用途地域は準工業地域となっていますが、妙円寺詣りの会場でもあり、周囲は一般住宅地でもあるため、用途地域の見直しによる住環境等の保全が求められます。

#### 都市交通

- 地域の骨格を形成する幹線道路の整備充実が必要です。
- 市街地にみられる慢性的な渋滞の解消のためには、地域内を通る通過交通が市街地を通過せずに伊集院インターチェンジに接続できる交通体系整備が必要です。
- 市街地南部に計画した都市計画道路3・5・7号上之馬場通り線、都市計画道路3・5・5号向江町線の整備は、市街地の交通集中を抑制する効果として整備が期待されます。
- 駅前広場や自由通路、駐車場などの整備が完了したJR伊集院駅について、観光拠点としての活用推進が必要です。
- コミュニティバスや乗合タクシーなど、利用者の増加を図るために継続的な見直しの検討が必要です。

#### 都市環境・景観形成

- 水道未普及地域の解消が必要です。
- 都市計画道路3・4・2号本町通り線の街路景観の保全と活用が期待されます。
- 地域の状況に応じた洪水対策が必要です。

#### (4) 地域づくりの目標

##### 伊集院地域の将来像

### 「ずっと住みたい、にぎわいあるまち」

本市の顔となる中心市街地及び妙円寺詣りなどの伝統行事を有する本地域は、住民がずっと住みたいと思え、住み続けられる受け皿づくりを進めるとともに、多くの来訪者がまた来たいと思える、にぎわいのあるまちづくりを目指します。

#### ①多様な機能が集積するまちなか拠点づくり

伊集院地域の市街地部分は都市拠点であり多様な機能が立地しています。特にJR伊集院駅周辺には、病院や商店街、金融、行政等、多くの商業業務施設が立地しており、今後も都市の核として、多様な都市機能の集積や維持を図ります。

#### ②地域特性に応じた生活空間づくり

伊集院地域には、市街地の中心部以外に中心部周辺の市街地、平野部の農村集落、中山間地域の集落など、異なる生活空間が立地しています。

それぞれの地区では、主な仕事や生活スタイルが異なり、地区に応じた暮らしが形成されています。

そのため、それぞれの地区における仕事や生活が持続可能となるよう、地域の特性と調和した生活環境の維持・形成にむけた取り組みを展開します。

#### ③地域の生活を支える基盤形成

地区の特性により異なる暮らしがある一方で、安全・安心な暮らしを実現するために、各地区共通の取り組みも必要です。

そのため、地域の生活を支える基盤として、安全・安心に暮らし続けられる基盤づくりを展開します。

#### ④薩摩街道を活かした歩行環境の形成

薩摩街道である県道206号線や、商店街や市役所などの公共施設が集積する地区は、歩行空間のネットワーク化とバリアフリー対策を推進し、快適で安全な歩行者空間の整備を推進します。

#### (5) 土地利用及び拠点整備の方針

- JR伊集院駅を中心として、様々な都市機能が集積する都市空間と、豊富な自然、文化、歴史的伝統とともに暮らす中心市街地を形成するとともに、薩摩半島の西の玄関口として来訪者にも魅力ある中心市街地を目指します。
- 地域の人口は減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くものと見込まれ、人口規模に見合ったまちづくりを進めます。具体的には、身近な買い物環境や公共交通ネットワークの充実に努め、市街地部における都市機能の集積と周辺部から市街地部に行き来し易い環境整備を図ります。



- JR伊集院駅南側は、身近な買い物需要に応えて、旧来の中心商店街としてのにぎわい回復を目指します。
- JR伊集院駅北側は、土地区画整理事業等により新たな都市空間が整備されており、今後は、よりにぎわいのある都市空間となるよう、商業施設やサービス施設の集積を促進していきます。
- 市役所本庁舎と隣接する伊集院文化会館及びその周辺部については、行政サービスと商業業務機能の集積を図り、土地の高度利用を図ります。
- 徳重神社の周辺は、準工業地域の指定をしていますが、現状の一般住宅地としての立地動向と徳重神社周辺の環境保全の観点から、用途地域の見直しを進め住環境の保全を図ります。
- 妙円寺団地の縁辺部などで沿道利用が見込まれる地域にあっては、周辺住民の利便性向上を図るため、必要に応じて用途地域の見直しも視野に入れ、商業業務系建物の立地を促進します。
- 伊集院インターチェンジの周辺部は、商業業務系の施設立地や工業団地の整備が進み、今後は建物用途の混在による環境低下が懸念されます。このため、用途地域の指定による適切な土地利用の誘導を図ります。
- 中心市街地に位置づける外環状道路の内側にあって用途地域の指定のない区域については、市街地の動向を踏まえ、建物用途の混在の防止を目的として、用途地域の指定を推進します。
- JR伊集院駅北部に位置する大規模工業施設については、操業環境整備と雇用の場の確保を目的として、維持・保全を図るとともに、施設周辺への企業誘致を推進し、一体的な工業団地の形成を図ります。
- 物産館（ chests 館、ふれあい飯牟礼館）は食のふれあい拠点として、地域内外の来訪者が集い、ふれあいを感じる場を提供していきます。
- 地区公民館については、既存の施設を活かし、地区コミュニティの形成の場として施設の活用を進めていきます。

#### （６）交通施設整備の方針

- 地域の骨格を形成している南九州西回り自動車道と国道3号については、継続して整備を促進し、広域軸として他の地域や隣接市へのアクセス向上を図ります。
- 市街地にみられる慢性的な交通集中に対応するため、通過交通が市街地を通過せずに伊集院インターチェンジにアクセスできる広域間連絡軸の整備を進めます。具体的には伊集院インターチェンジから都市計画道路3・5・4号郡中央通り線（県道伊集院日吉線）を經由して国道3号に接続する道路や、日吉地域から市街地を經由せずに伊集院インターチェンジにアクセスする道路を検討します。
- 中心市街地における外環状道路を位置づけ、市街地にみられる通過交通の流入による渋滞の解消を図ります。このため、広域間連絡軸である県道鹿児島東市来線、県道伊集院日吉線のバイパス整備とともに、これら路線と妙円寺団地周辺を接続する環状型の道路網を形成します。
- 都市計画決定されている都市計画道路3・5・7号上之馬場通り線及び都市計画道路3・5・5号向江町線は、既存の道路部以外は現在未整備となっていますが、市街地の交通集中を抑制する効果として整備が期待されることから、外環状道路の形成とあわせて、位置の見直しを含めた整備方策を検討していきます。
- コミュニティバスや乗合タクシーについては、利便性向上に向けた路線や便数の見直し等を継続的行っていきます。

- JR伊集院駅の北口と南口の駅前広場が完成し、南北自由通路や駐車場が整備され、薩摩半島の西の玄関口として魅力向上に寄与しています。さらなる魅力向上に向け、パークアンドライド※<sup>10</sup>の推進を行うなどを検討していきます。

#### (7) 地域環境整備の方針

- 地域内に整備された工業団地については、今後とも操業環境整備と雇用の場の確保を図ります。
- 水道未普及地域については、水源の確保や水道施設整備を進め、未普及地域の解消を図ります。
- 都市計画道路3・4・2号本町通り線に整備されている清流溝については、特徴的な街路景観として、その保全を図ります。
- 伊集院森林公園は、今後とも保全・活用を図ります。
- 城山公園は、眺望景観を保全するとともに歴史文化資源の保全を図り、今後とも保全・活用を図ります。
- 伊集院総合運動公園は、運動公園として整備の充実を図ります。
- 妙円寺中央公園は、地区公園として維持・保全を図ります。
- 徳重神社や妙圓寺など、地域固有の歴史文化資源の保全・活用を図ります。
- 薩摩街道は、歴史文化を後世に伝える場として、今後とも沿道の環境整備に取り組みます。
- 生徒数の減少がみられる小学校や中学校については、地域住民との合意形成を前提として学校再編の検討を進め、教育環境の維持向上を図ります。
- 大雨による建物浸水被害などの災害に対応するため、緊急時の排水設備の設置など地区の状況に応じた洪水対策を講じていきます。



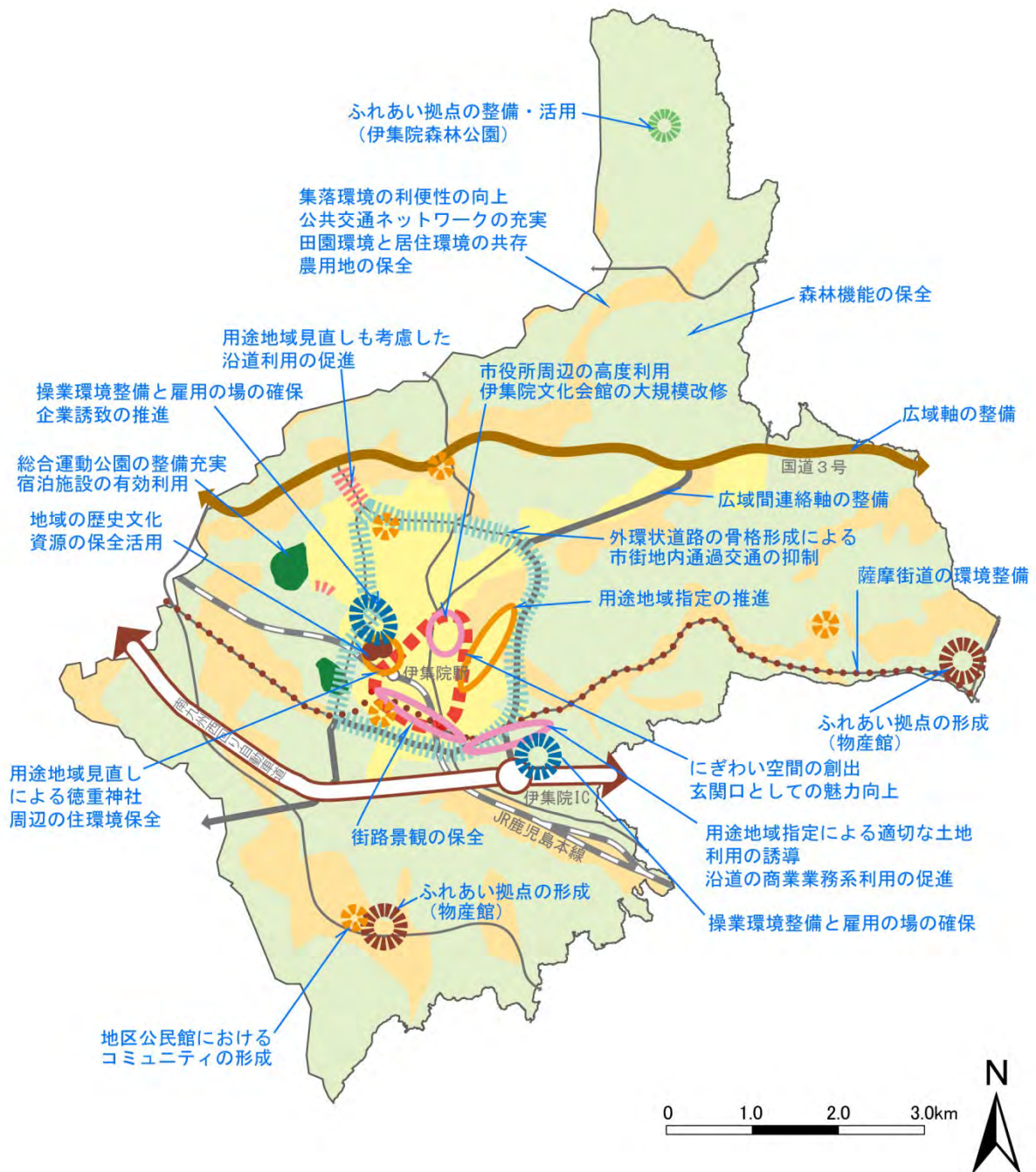
城山公園



妙円寺詣り

※<sup>10</sup> パークアンドライド： 目的地まで直接自家用車で行くのではなく、最寄りの駅やバス停まで自家用車で行き、車を駐車させた後、公共交通機関を利用して目的地に向かう移動方式。渋滞の緩和だけでなく排出ガスの抑制効果も期待できる。

図 地域整備の方針（伊集院地域）





## 4. 日吉地域のまちづくり方針

### (1) 地域の概況

日吉地域は、本市の中央部に位置し、北は東市来地域、東は伊集院地域、南は吹上地域に隣接し、西は吹上浜を経て東シナ海に面しています。

国道270号が地域を南北に通過し東市来地域や吹上地域を結んでいるほか、県道伊集院日吉線が伊集院地域の中心市街地を結んでおり、この2本の路線が交差する日置地区を中心に市街地が形成されています。

市街地部には日吉支所や小・中学校などの都市施設の集積がみられ、吹上浜にも近接するほか、「せつぺとべ」に代表される伝統行事が行われる八幡神社なども立地しており、豊かな自然や歴史とともに暮らす地域となっています。

日吉地域の人口は平成27年現在4,918人、世帯数は2,077世帯であり、将来（平成47年）の人口は4,200人程度まで減少すると見込まれます。

都市計画としては、都市計画区域等の制度の導入はされていません。

図 日吉地域の位置

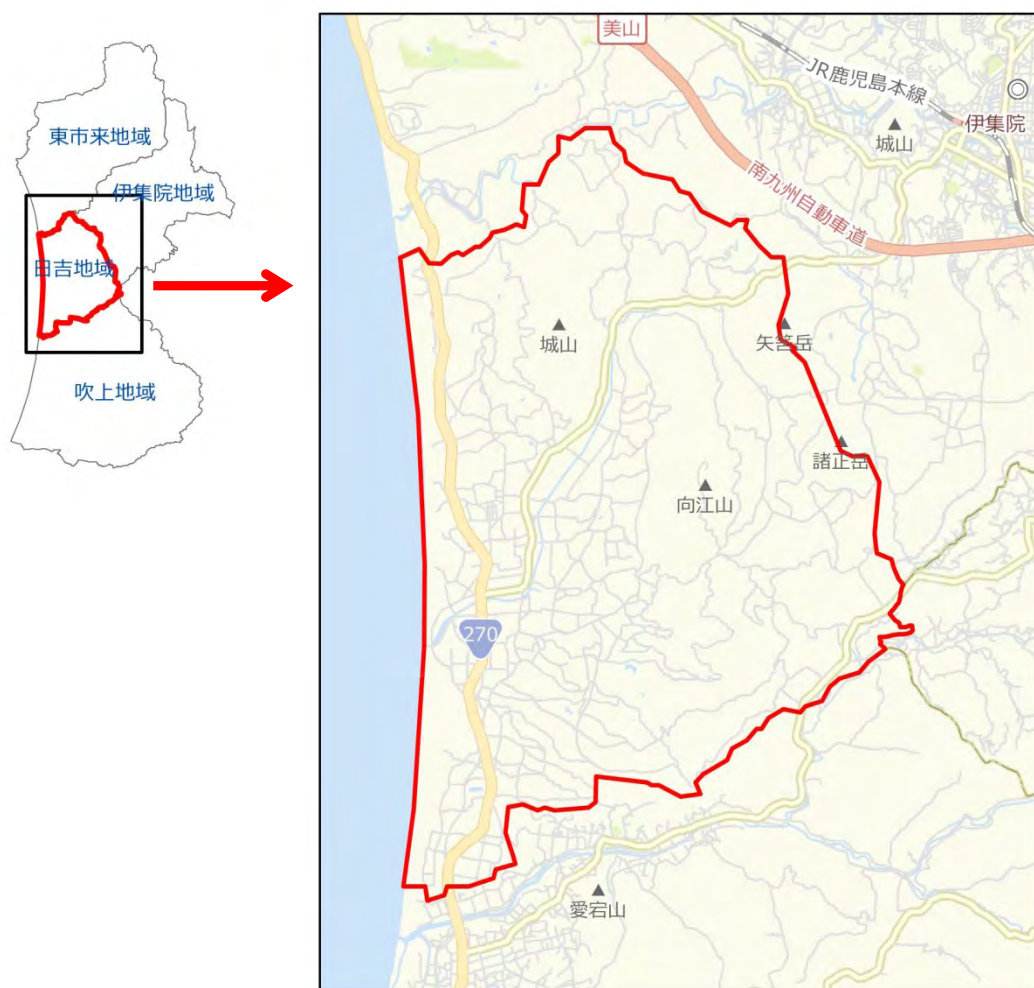




表 日吉地域の人口・世帯数

|           | 人口     |       |        |        |      |       | 世帯数    |           |
|-----------|--------|-------|--------|--------|------|-------|--------|-----------|
|           | 総数     | 15歳未満 | 15～64歳 | 65歳以上  | 不詳   | 高齢化率  | 総数     | 平均世帯人員    |
| 日吉地域      | 4,918  | 496   | 2,549  | 1,873  | 0    | 38.1% | 2,077  | 2.37 人/世帯 |
| 日置市全体     | 49,249 | 6,341 | 26,909 | 15,569 | 430  | 31.6% | 19,649 | 2.51 人/世帯 |
| 市全体に占める割合 | 10.0%  | 7.8%  | 9.5%   | 12.0%  | 0.0% | -     | 10.6%  | -         |

出典：平成27年国勢調査

図 日吉地域の将来人口の見通し



## (2) アンケートによる意向把握

地域の将来イメージについては、「子ども、高齢者、障がい者に優しいまち」に最も多くの回答があり18.9%の割合を占めていますが、「健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち」も17.6%と、概ね同等の割合となっています。

地域整備の方向性としては、コンパクトなまちづくりを進めることに対して多くの支持が集まったほか、未利用地の解消への取り組み、小売り店舗やサービス施設の集積、郊外型大型店舗の立地促進、身近な生活道路の整備、身近な公園の整備といった方策に多くの期待が寄せられています。

表 アンケート調査結果

|           |             |     |                                               |
|-----------|-------------|-----|-----------------------------------------------|
| 地域の将来イメージ |             | 第1位 | 子ども、高齢者、障がい者に優しいまち (18.9%)                    |
|           |             | 第2位 | 健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち (17.6%)                 |
|           |             | 第3位 | 災害に強い、安心して安全に暮らせるまち (16.4%)                   |
| 地域整備の方向性  | コンパクトなまちづくり | 第1位 | 徒歩や公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集めるべきだ (61.5%)  |
|           |             | 第2位 | 道路や下水道、学校など、現在のまま維持していくべきだ (13.7%)            |
|           | 住宅地の整備      | 第1位 | 住宅地内に残る未利用地の解消に取り組む (27.8%)                   |
|           |             | 第2位 | 住宅地であっても店舗などの立地をしやすい (16.6%)                  |
|           | 商業地の整備      | 第1位 | 小売り店舗や金融機関などのサービス施設を集積させて、活気ある地域を形成する (28.9%) |
|           |             | 第2位 | 文化会館などの公共施設や大型店舗を集積させて、人が集まる中心核を形成する (20.4%)  |
|           | 郊外型大型店舗     | 第1位 | 郊外の大型店は車で買い物が便利であり、自分の地域に立地が進むと良い (34.4%)     |
|           |             | 第2位 | 現在の立地状況程度が、自分の地域にとっては丁度良い (24.3%)             |
|           | 道路や公共交通     | 第1位 | 身近な生活道路の整備や補修 (25.8%)                         |
|           |             | 第2位 | 電車、路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーなど公共交通の利便性の向上 (21.4%)  |
|           | 公園の整備       | 第1位 | 身近な場所にあり、子どもや高齢者が利用しやすい公園の整備 (34.3%)          |
|           |             | 第2位 | 災害時に避難場所となる公園の整備 (23.9%)                      |

出典：日置市都市計画マスタープラン まちづくりアンケート調査

### (3) 地域づくりの主要課題

#### 都市づくり・拠点整備

- 本地域の人口は減少傾向にあり、将来の人口規模に見合ったまちづくりが必要です。
- 転出人口の超過傾向が続いているため、転出人口抑制に向けたまちづくりが必要です。

#### 土地利用

- 日吉支所等の官公庁施設や学校施設等の集積する地域の中心市街地はあるが、商業系の集積はそれほど多くなく、中心部への商業・サービス施設の集積促進が期待される。
- 日吉地域には一定の新築動向がみられ、無秩序な宅地化の進展が懸念されるため、都市計画区域等の指定による良好な生活環境の形成が求められます。
- 日吉地域は用途地域指定は行っておらず自然的立地動向に委ねていますが、今後の立地動向の進展によっては、市街地部の建物用途の混在による環境低下を防ぐための規制・誘導方策の検討が必要です。
- 小学校再編が完了したため、廃校となった施設の活用や処分の方策検討・推進が必要です。
- 幼稚園の定員割れ等を防ぐため、地域の中心地周辺における子育て世代の確保が望めます。
- 老朽化がみられる公営住宅は、計画的な更新が必要です。

#### 都市交通

- 国道270号と県道伊集院日吉線が地域の骨格を形成しており、今後とも整備充実が必要です。
- 県道伊集院日吉線は伊集院地域を結ぶ幹線道路となっていますが、JR伊集院駅付近を通過することから、この付近の渋滞発生の要因となることが懸念されます。このことから、JR伊集院駅付近を通過せずに伊集院インターチェンジとアクセスできる路線整備が望めます。
- 小学校再編が完了し遠距離通学者も生じることから、通学者の安全な通学環境の整備が求められます。
- 日吉地域で導入していたコミュニティバスは、利用者数の低迷から休止し、乗合タクシーを日吉地域全域で運営していますが、利用者数の伸び悩みがみられます。今後は、乗合タクシーの利用者数の増加につながる方策の検討等が必要です。

#### 都市環境・景観形成

- せっぽとべに代表される伝統行事の保全と活用が必要です。

### (4) 地域づくりの目標

#### 日吉地域の将来像

#### 「豊かな自然と伝統を感じる暮らしのあるまち」

本地域は、豊かな自然と「せっぽとべ」に代表される伝統行事や史跡も豊富にあり、その資源を守り伝えるとともに、自然と共生した暮らしのあるまちを目指します。

### ①暮らし続けられる地域づくり

日常生活に必要な機能が集積した日吉支所周辺について、日常生活を支える地域拠点として位置づけ、各地区と連携しながら、現在の機能を維持するまちづくりを展開します。

また、地域拠点以外の地区では、安全・安心な生活環境に必要な整備を進めながら、人と人のつながりによる地域の魅力を高めて、暮らし続けられる地域づくりを展開します。

### ②集落地区の活力の維持・創出

安全で利便性の高い生活環境を確保するため、集落地区と地域拠点との連絡強化を図ります。また、集落地の存続、地域活力の維持・創出を図るため、地域コミュニティの形成と都市と農山村交流の推進に向けた仕組みづくりを進めます。

### ③地域資源を活用した地域づくり

本地域に点在する史跡や、せつぺとべなどの伝統行事、農産物、自然などの地域資源を保全活用する地域づくりを進めます。

## (5) 土地利用及び拠点整備の方針

- 日吉支所の立地する周辺一帯に中心市街地を形成していきます。行政サービス、商業、教育、福祉などの様々な機能の集積を促進するだけでなく、居住機能も可能な限り集め、コンパクトでにぎわいのある市街地形成を図ります。
- 日吉地域は、新たな住宅地の立地が一定程度みられますが、都市計画法に基づく規制・誘導は行っておらず、今後の宅地化の進展によっては、無秩序な宅地化や建物用途の混在による住環境の低下が懸念されます。このため、新築動向や建物用途の混在度合などを把握するとともに、住環境を保全・向上するための都市計画区域や準都市計画区域の指定について、日置市全体の一体の都市としての整備、開発及び保全の観点から、必要性の検討を行います。
- 老朽化している公営住宅の建て替えや定住促進に向けた住宅地整備など、子育て世代から高齢者までの誰もが暮らしやすいと感じる住宅地整備を推進し、定住促進を図ります。
- 物産館（城の下物産館、吉利物産店）は、食のふれあい拠点として、地域内外の来訪者が集い、ふれあいを感じる場を提供していきます。
- 地区公民館については、既存の施設を活かし、地区コミュニティの形成の場として施設の活用を進めていきます。
- 地域内の小学校を再編し平成30年度から1校で運営している状況を踏まえ、廃校となった施設については公民館として利用するなど、土地や建物の有効活用を図ります。
- 空き家・空き地が散見される状況を踏まえ、空き家バンク事業の運用や借地公園制度の導入などを検討し、空き家・空き地の解消を図り、防犯面や地域の活性化にもつながる土地の有効活用を進めます。

## (6) 交通施設整備の方針

- 国道270号と県道伊集院日吉線で構成される地域内骨格道路については、継続して整備を促進し、他の地域や隣接市へのアクセス向上を図ります。

- 通学者の安全で安心できる道路環境整備を図るため、歩道やガードレールの設置、通学バス等のサービス向上などを継続的に進めていきます。
- 公共交通としては、日吉地域は現在、他の地域で導入しているコミュニティバスは休止し、乗合タクシーを運営している状況です。今後は、日置市地域公共交通網形成計画に基づき公共交通ネットワークの充実を図り、自家用車に頼らずとも通院や買い物、通学などに行き来し易い環境整備を目指します。また、地域住民の利便性向上と効率的な行政運営につながる事業運営方策を継続的に検討していきます。
- 南さつま市から北上して本地域内まで整備されている吹上浜サイクリングロードについては、江口浜までの延伸、整備の実現を目指し、施設の有効活用と地域の魅力向上につなげます。

#### (7) 地域環境整備の方針

- 日吉運動公園の整備・保全を図ります。
- 海浜地の保全と活用を図ります。吹上浜の松林は、飛砂防止の観点から自然公園特別地域の指定のもと、保全を図ります。
- 地域内にみられる棚田の景観を保全するとともに、行政として行える保全活用方策を今後も継続して検討していきます。
- 「せつぺとべ」等の伝統行事や日置島津家の菩提寺である大乘寺跡など、地域固有の歴史文化資源の保全・活用を図ります。



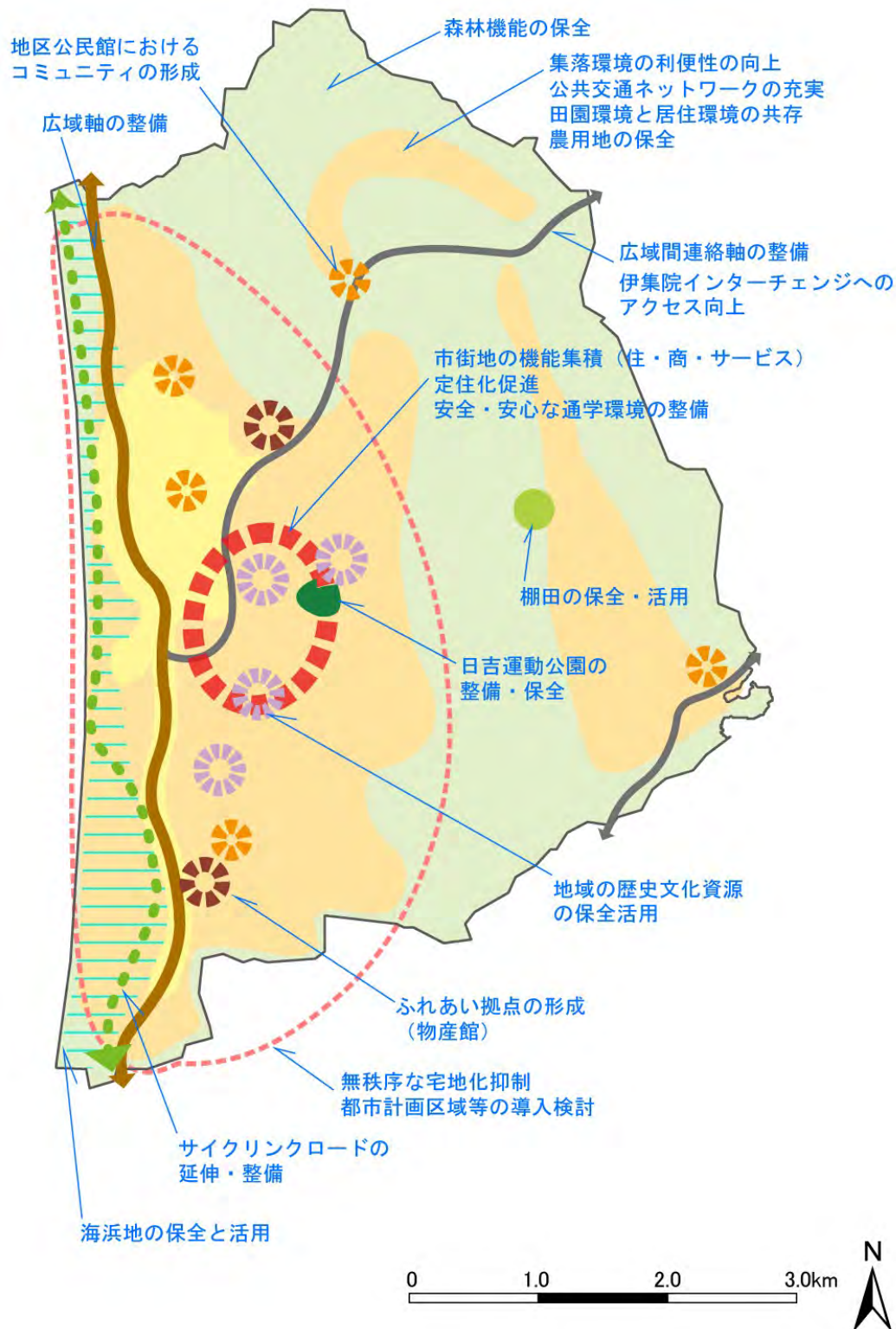
日吉運動公園



せつぺとべ



図 地域整備の方針（日吉地域）



## 5. 吹上地域のまちづくり方針

### (1) 地域の概況

吹上地域は、本市の南部に位置し、北は日吉地域、東は鹿児島市、南は南さつま市に隣接し、西は吹上浜を経て東シナ海に面しています。

国道270号が地域を南北に通過し、日吉地域や南さつま市を結んでおり、国道270号と県道谷山伊作線の交差する地区を中心に市街地が形成されています。

市街地部には吹上支所をはじめとする多くの都市機能が集積し、近隣にはさつま湖、吹上温泉、吹上浜などの豊富な自然資源を有し、さらには、大汝牟遅神社や千本楠といった歴史的資源など、様々な機能が市街地を形成しています。

吹上地域の人口は平成27年現在8,034人、世帯数は3,354世帯であり、将来（平成47年）の人口は6,700人程度まで減少すると見込まれます。

都市計画としては、国道270号を中心とした一帯に吹上都市計画区域が設定されており、吹上支所や吹上温泉を有する中心市街地には4本の都市計画道路が指定されています。

図 吹上地域の位置

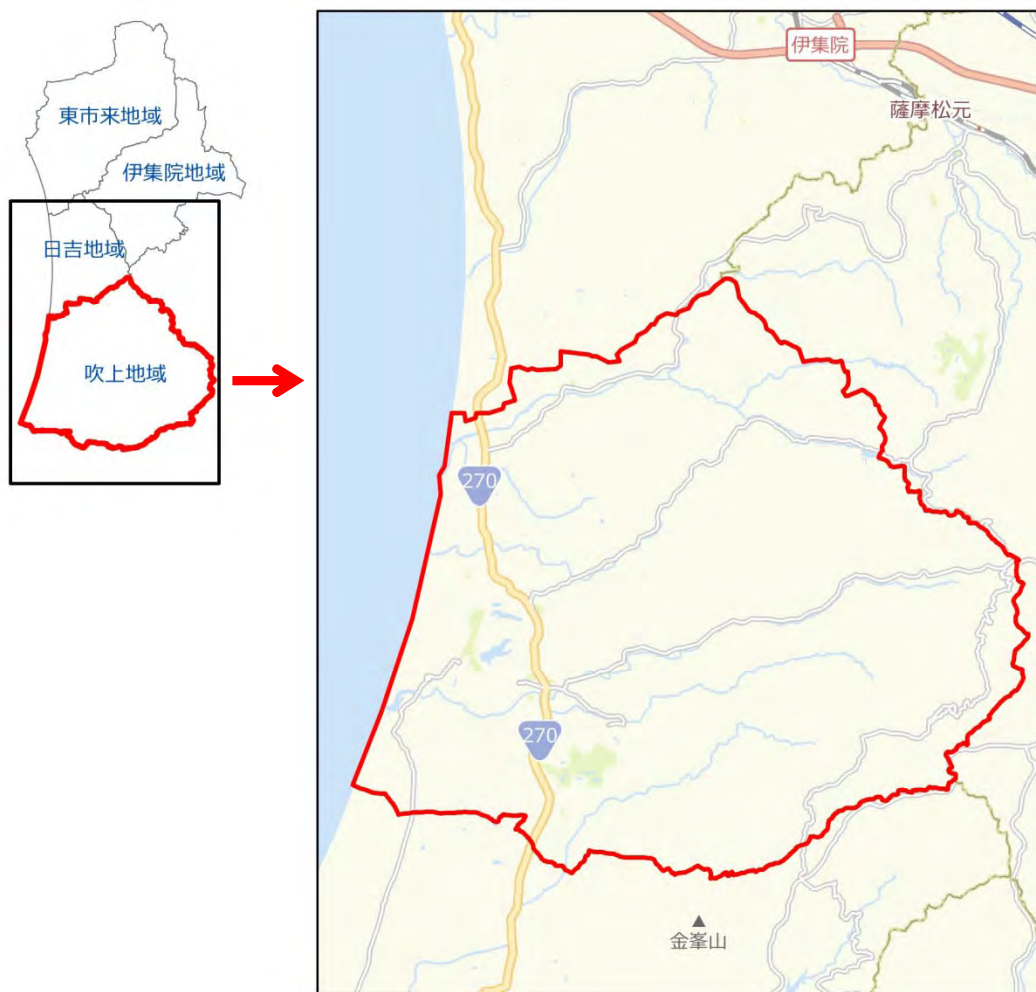


表 吹上地域の人口・世帯数

|           | 人口     |       |        |        |       |       | 世帯数    |           |
|-----------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|-----------|
|           | 総数     | 15歳未満 | 15～64歳 | 65歳以上  | 不詳    | 高齢化率  | 総数     | 平均世帯人員    |
| 吹上地域      | 8,034  | 811   | 4,034  | 3,144  | 45    | 39.1% | 3,354  | 2.40 人/世帯 |
| 日置市全体     | 49,249 | 6,341 | 26,909 | 15,569 | 430   | 31.6% | 19,649 | 2.51 人/世帯 |
| 市全体に占める割合 | 16.3%  | 12.8% | 15.0%  | 20.2%  | 10.5% | -     | 17.1%  | -         |

出典：平成27年国勢調査

図 吹上地域の将来人口の見通し



## (2) アンケートによる意向把握

地域の将来イメージについては、「子ども、高齢者、障がい者に優しいまち」に最も多くの回答があり18.4%の割合を占めていますが、「健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち」も17.0%と、概ね同等の割合となっています。

地域整備の方向性としては、コンパクトなまちづくりを進めることに対して多くの支持が集まったほか、未利用地の解消への取り組み、小売り店舗やサービス施設の集積、郊外型大型店舗の立地促進、公共交通の利便性の向上、身近な公園の整備といった方策に多くの期待が寄せられています。

表 アンケート調査結果

|           |             |     |                                               |
|-----------|-------------|-----|-----------------------------------------------|
| 地域の将来イメージ |             | 第1位 | 子ども、高齢者、障がい者に優しいまち (18.4%)                    |
|           |             | 第2位 | 健康づくりを推進し、医療体制が充実したまち (17.0%)                 |
|           |             | 第3位 | 災害に強い、安心して安全に暮らせるまち (14.9%)                   |
| 地域整備の方向性  | コンパクトなまちづくり | 第1位 | 徒歩や公共交通等で移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集めるべきだ (61.5%)  |
|           |             | 第2位 | 道路や下水道、学校など、現在のまま維持していくべきだ (12.3%)            |
|           | 住宅地の整備      | 第1位 | 住宅地内に残る未利用地の解消に取り組む (30.4%)                   |
|           |             | 第2位 | 建物の老朽化や密集状況を改善する (18.3%)                      |
|           | 商業地の整備      | 第1位 | 小売り店舗や金融機関などのサービス施設を集積させて、活気ある地域を形成する (34.1%) |
|           |             | 第2位 | 文化会館などの公共施設や大型店舗を集積させて、人が集まる中心核を形成する (20.6%)  |
|           | 郊外型大型店舗     | 第1位 | 郊外の大型店は車で買い物が便利であり、自分の地域に立地が進むと良い (38.1%)     |
|           |             | 第2位 | 現在の立地状況程度が、自分の地域にとっては丁度良い (18.4%)             |
|           | 道路や公共交通     | 第1位 | 電車、路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーなど公共交通の利便性の向上 (22.4%)  |
|           |             | 第2位 | 身近な生活道路の整備や補修 (20.8%)                         |
|           | 公園の整備       | 第1位 | 身近な場所にあり、子どもや高齢者が利用しやすい公園の整備 (33.7%)          |
|           |             | 第2位 | 災害時に避難場所となる公園の整備 (24.4%)                      |

出典：日置市都市計画マスタープラン まちづくりアンケート調査

### (3) 地域づくりの主要課題

#### 都市づくり・拠点整備

- 本地域の人口は減少傾向にあり、将来の人口規模に見合ったまちづくりが必要です。
- 転出人口の超過傾向が続いているため、転出人口抑制に向けたまちづくりが必要です。
- 小中学校は、地域住民との合意形成を前提とした再編の検討が必要です。
- 吹上浜公園等の集積を活かした、スポーツ・レクリエーション拠点としての整備充実が望まれます。

#### 土地利用

- 今後の立地動向の進展によっては、市街地部の建物用途の混在による環境低下を防ぐための規制・誘導方策の検討が必要です。
- 中心市街地である伊作地区の幹線道路沿道は、老朽化住宅や空き家がみられることから、老朽化や空き家に対する整備方策の検討が必要です。
- 老朽化の進んだ公営住宅は新たな入居希望者が無い状況がみられることから、定住促進につながる方策の検討が必要です。

#### 都市交通

- 国道270号、県道谷山伊作線、県道永吉入佐鹿児島線が地域の骨格を形成しており、今後とも整備充実が必要です。
- 県道谷山伊作線や県道永吉入佐鹿児島線については、南九州西回り自動車道伊集院インターチェンジまたは松元インターチェンジとのアクセス向上が期待されます。
- 未整備の都市計画道路については、吹上支所や吹上温泉が立地する中心市街地の骨格を形成する路線として、早期整備が期待されます。
- コミュニティバスと乗合タクシーを導入しており、利用者はどちらも横ばいから増加の傾向にあります。今後も利用者増加を図るために継続的な見直しが必要です。

#### 都市環境・景観形成

- 吹上温泉については、観光資源としての環境形成が求められます。
- 市街地周辺に残る大汝牟遅神社や千本楠、伊作城跡などの歴史的資源について、保全を図ることが必要です。

### (4) 地域づくりの目標

#### 吹上地域の将来像

#### 「みんなが健康になるうるおいあるまち」

本地域は、美しい吹上浜を背景にした観光と温泉や運動施設などの健康・レクリエーションを取り入れた施設への来訪者も多いため、住民と来訪者の両者の利便性の向上を図るまちづくりを進め、豊かな自然に包まれた地域の生活と観光交流が継続するうるおいあるまちを目指します。



### ①豊かな自然に包まれた生活と交流を高めるまちづくり

豊かな自然環境を活用した特産品の開発や来訪者への販売など、地域の雇用や収入を高め、来訪者の満足度も高める取り組みにより、地域活力の向上と交流人口の拡大を促す取り組みを展開します。

また、豊かな自然環境を保全しながら、生活環境や交流環境の改善を図ることで、地域の魅力を守りながら、住みやすく訪れやすいまちづくりを展開します。

### ②生活と交流を支えるまちづくり

地域住民の日常生活を支えるとともに、交流人口の拡大を促す基盤整備を推進します。

また、観光交流を支える地域の生活環境を維持することで、交流を支える地域住民の生活と地域住民に支えられた観光交流が継続するまちづくりを展開します。

### ③地域資源や既存施設を活かしたまちづくり

吹上温泉や吹上浜公園、健康交流館ゆ〜ぶる吹上、国民宿舎吹上砂丘荘などの既存施設や、白砂青松の吹上浜、さつま湖、伊作城跡など、豊かな自然や既存施設を地域振興のため活用し、滞在型交流人口と雇用拡大につなげていきます。

## (5) 土地利用及び拠点整備の方針

- 吹上支所の立地する周辺一帯を中心市街地として位置づけ、様々な都市機能の集積を促進し、安全で利便性の高いコンパクトな市街地形成を図ります。
- 中心市街地において、建物用途の混在による住環境の低下等が懸念される場合は、用途地域等の都市計画制度の導入を検討し、暮らしやすさの向上を図ります。
- 吹上浜公園、健康交流館ゆ〜ぶる吹上、吹上浜サイクリングロードなどの資源を活用し、スポーツ合宿や各種大会などを行うことのできるスポーツ・レクリエーション拠点として整備充実を図ります。
- 吹上温泉の観光資源としての活用を図るため、案内板の設置など行政が行える支援方策を推進し、にぎわいとふれあいのある温泉地としての環境形成を図ります。
- 老朽化している公営住宅の建て替えや定住促進に向けた住宅地整備など、子育て世代から高齢者までの誰もが暮らしやすいと感じる住宅地整備を推進し、定住促進を図ります。
- 中心市街地である伊作地区の幹線道路沿道は、老朽化住宅や空き家がみられます。このため、建物更新の支援や公共空地への土地利用転換、土地区画整理事業の導入など、都市的土地利用の集積と安全性に配慮した市街地形成方策を検討していきます。
- 物産館（かめまる館、おもいで館、直売所明るい農村、藤元地区直売所、ひまわり館）は、食のふれあい拠点として、地域内外の来訪者が集い、ふれあいを感じる場を提供していきます。
- 地区公民館については、既存の施設を活かし、地区コミュニティの形成の場として施設の活用を進めていきます。

## (6) 交通施設整備の方針

- 南北方向に通過する国道270号と、鹿児島市を結ぶ県道永吉入佐鹿児島線、県道谷山伊作線で構成される地域内骨格道路については、継続して整備を促進するとともに伊作峠トンネルの整備促進を図り、他の地域や隣接市へのアクセス向上を図ります。

- 地域の人口は減少傾向にあり、今後も続くものと見込まれます。将来の人口規模に見合ったまちづくりが必要とされ、公共交通ネットワークの充実を図り、自家用車に頼らずとも通院や買い物、通学などに行き来し易い環境整備を目指します。
- 4路線ある都市計画道路のうち伊作地区の国道270号にあたる都市計画道路3・5・1号神田線のみ整備済みで、他の3路線は整備が進んでいません。今後は、都市計画道路3・5・2号打越線、都市計画道路3・5・4号中之里線、都市計画道路3・6・3号本町線についても中心市街地形成のため整備を進めていきます。
- コミュニティバスや乗合タクシーについては、利便性向上に向けた路線や便数の見直し等を継続的に行っていきます。
- 吹上浜サイクリングロードについては、周辺地域の各拠点を結ぶレクリエーションネットワークの形成を目指し、整備と活用を図ります。

#### (7) 地域環境整備の方針

- 吹上浜公園は総合公園として整備・保全を図り、近接するさつま湖などと一体的なレクリエーション拠点としての活用を図ります。
- 海浜地の保全と活用を図ります。ウミガメの上陸・産卵の場として生息環境を整えるとともに、吹上浜の松林は、飛砂防止の観点から自然公園特別地域の指定のもと、保全を図ります。
- 伊作城跡や大汝牟遅神社は、歴史文化資源の保全を図るため、市民と行政が協働で行う周辺の環境保全方策を検討していきます。
- 地域内にみられる棚田の景観を保全するとともに、行政として行える保全活用方策を今後も継続して検討していきます。
- 生徒数の減少がみられる小学校や中学校については、地域住民との合意形成を前提として学校再編の検討を進め、教育環境の維持向上を図ります。
- 漁港の環境整備を促進します。
- 地域内に整備された亀原工業団地と藤元工業団地については、今後とも操業環境整備と雇用の場の確保を図るとともに、都市計画制度の導入等による周辺環境の保全方策を検討していきます。



吹上浜公園



伊作城跡

広域間連絡軸の整備

集落環境の利便性の向上  
公共交通ネットワークの充実  
田園環境と居住環境の共存  
農用地の保全

森林の機能保全

広域軸の整備

ふれあい拠点の形成  
(物産館)

コンパクトな市街地形成  
用途地域等の規制誘導の必要性の検討  
空き家の解消につながる市街地形成方  
策の検討

伊作峠トンネルの整備

スポーツレクリエーション拠点の形成

国道270号

地域の歴史文化  
資源の保全

漁港の環境整備

操業環境整備と  
雇用の場の確保  
棚田の保全・活用

サイクリングロード  
の保全・活用

吹上温泉の活性化促進

都市計画道路の整備に  
よる市街地の骨格形成

海浜地の保全と活用

地区公民館における  
コミュニティの形成

0 1.0 2.0 3.0km

N





湯之元第一土地区画整理区域



徳重土地区画整理区域